

# 第17回日本スカウトジャンボリー 基本実施要領



「冒険 ～能登のチカラ未来へ～」

石川県珠洲市「りふれっしゅ村 鉢ヶ崎」  
平成30年（2018年）8月4日（土）～8月10日（金）



公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

平成29年6月23日発行

# 目 次

第 1 章	開催の趣旨	1
第 2 章	名 称	1
第 3 章	テ ー マ	1
第 4 章	会 期	2
第 5 章	会場の地理的条件	2
第 6 章	参 加 者	3
第 7 章	加盟員の参加	4
第 8 章	参加に要する経費	6
第 9 章	参加の申し込み	6
第 1 0 章	ジャンボリー活動と日程	7
第 1 1 章	会場利用計画と参加者の生活	9
第 1 2 章	輸 送	11
第 1 3 章	入場・退場	11
第 1 4 章	安全管理と救護衛生	12
第 1 5 章	大会組織と運営	12
第 1 7 回日本スカウトジャンボリーに関する留意事項		17
付表ー 1	第 1 7 回日本スカウトジャンボリー 標準日程表	18
付表ー 2	第 1 7 回日本スカウトジャンボリー 会場までの交通案内図	19
付表ー 3	第 1 7 回日本スカウトジャンボリー 会場周辺図	20
付表ー 4	大会およびジャンボリー年表	21

# 第1章 開催の趣旨

## 1. 日本スカウトジャンボリー開催にあたって

日本ジャンボリーは、全国のスカウトと指導者、そして海外からの参加者を交え、班制教育と各種の進歩制度と野外活動など、スカウト教育の基本を重視した質の高いスカウト活動をおし、「ちかい」と「おきて」の実践を促進させる機会として、また、ジャンボリーならではのプログラムに参加することにより、新たな発見や感動を体感するとともに、スカウト同士の友情の絆を結び、海外からの参加者との交流を通じて、国際感覚を高揚させ、世界平和を考える機会を提供するなど、青少年の自己成長を促すための我が国スカウト運動最大の教育イベントとして4年を周期に開催してきた。

第17回日本スカウトジャンボリーは、日本のスカウト連盟創立100周年を迎える平成34年（2022年）に向けて、国内スカウト運動の様々な課題に取り組む大会として認識して、第18回大会以降も続けていく新たなジャンボリーとして、参加形態の変更、プログラムや大会運営方法の見直し等に取り組み、新たな意義を感じさせるために「スカウトジャンボリー」に名称を変更する。

## 2. 大会の目的

本大会に参加する青少年たちが、平素培ったスカウト訓練を基盤に、国内外のスカウト仲間との相互交流を通じて、日本連盟創立100周年を目指した長中期計画にある、冒険的で楽しい野外活動を行いながら奉仕活動に励む「活動的で自立したスカウトを育てる」ことを目指す大会とする。

本大会では、これまでの派遣隊方式から自団の隊のままで参加できる方式に変更することで、希望するすべてのスカウトが自団の指導者と一緒に参加できるようになり、普段のスカウト仲間との班編成で、ベンチャースカウトの支援を受けながら大会参加に向けた事前訓練に取り組み、大会参加を通じて長期のキャンプを実践することで、参加する隊や班の育成を図る機会とする。

また、大会の開催にあたっては、能登の豊かな風土と自然環境を活かし、地域社会との共生をはかりながら、スカウトたちを魅了するハイアドベンチャーの実践と新たな指導者の養成・確保につなげる機会とする。

# 第2章 名 称

第17回日本スカウトジャンボリー（略称：17NSJ）

（英語名称 17th NIPPON SCOUT JAMBOREE）

# 第3章 テ ー マ

「冒険 ～能登のチカラ未来へ～」

（英語テーマ ADVENTURE - NOTO FOR FUTURE -）

本大会は、日本連盟創立100周年となる平成34年（2022年）に向け、参加者がこの大会での様々な冒険により、大きく飛躍する機会として位置づけている。

開催地である能登は、長い時間をかけて自然と調和した人の営みがつくりあげた里山里海として高く評価され、世界農業遺産に認定されている地域であり、この素晴らしい環境を有した能登の地から、能登の力を活かした未来への冒険を行うことをテーマに、地域社会との連携を深める大会とする。

### 【参考】世界農業遺産とは

その土地の環境を生かした伝統的な農業・農法や生物多様性が守られた土地利用、農村文化や農村景観などが一体となり、維持保全が図られている世界的に重要な地域を後世に引き継ぐことを目的として、2002年に国連食糧農業機関（FAO）により創設され、「能登の里山里海」は、2011年6月、日本で初めて世界農業遺産に認定された。

## 能登の里山里海について

<http://www.pref.ishikawa.jp/satoyama/noto-giahs/>

「能登の里山里海」世界農業遺産活用実行委員会のホームページより

### ■里山とは

里山は、集落、農地、それらを取り巻く二次林、人工林、採草地、竹林、ため池などがモザイク状に組み合わせられて形成され、人が適度に利用することで、豊かな自然が形成・維持されてきた地域です。里山は、人の生活・生産活動の場であると同時に、多様な生きものの生息・生育空間ともなり、さらには地域固有の文化や景観も育むなど多様な価値を併せ持っています。

### ■里海とは

人が様々な海の恵みを得ながら生活するなど、人の暮らしと深い関わりを持つ沿岸域を里海と呼びます。里海は生産性が高く豊かな生態系を持ち、魚類の産卵場所や稚魚の生育場所など、海の生きものにとっても重要な場所です。

### ■能登半島

能登半島の地形は、低山と丘陵地が多いことが特徴です。また、三方を海に囲まれているため、遠浅の砂浜海岸や外浦と呼ばれる岩礁海岸、内浦と呼ばれるリアス式海岸を含む内湾性の海域と、海岸線も変化に富んでいます。気候は日本海側気候型に属し、冬季には積雪がありますが、沖合を対馬暖流が流れているため、同緯度の他地域に比べて比較的温暖です。そのため、暖寒両系の動植物が生息する等、豊かな生物相が見られます。能登半島は、土地利用、農林水産業、食文化、祭礼、工芸、生物多様性などにおいて、里山から里海までが密接につながり、一体不可分となっている地域です。

## 第4章 会 期

平成30年(2018年) 8月4日(土)～10日(金)

第17回日本スカウトジャンボリーの参加者は、8月4日(土)に入場し、8月10日(金)に退場するため、6泊7日間のキャンプ生活を行う。

### 〈日程表〉

全体行事

日数	日程	主な行事	午前	午後	夜間
	8月1日(水)	先発スタッフ入場・設営	先発スタッフ入場・設営		準備作業
前々日	8月2日(木)	大会運営スタッフ入場・設営	大会運営スタッフ入場・設営		事前訓練
前日	8月3日(金)	準備作業	準備作業		
第1日	8月4日(土)	参加者入場・設営	準備作業	参加者入場・設営	
第2日	8月5日(日)	開会式	設営		開会式
第3日	8月6日(月)	プログラム	プログラム	プログラム	
第4日	8月7日(火)	信仰奨励・ジャンボリー大集会	信仰奨励	プログラム	ジャンボリー大集会
第5日	8月8日(水)	プログラム	プログラム	プログラム	
第6日	8月9日(木)	プログラム・閉会式	プログラム	プログラム	閉会式
第7日	8月10日(金)	撤営・参加者退場	撤営・参加者退場		
翌日	8月11日(土)	撤営・大会運営スタッフ退場	撤営・大会運営スタッフ退場		
	8月12日(日)	撤営・後発スタッフ退場			

## 第5章 会場の地理的条件

### 1. 会 場

石川県珠洲市蛸島町「りふれっしゅ村 鉢ヶ崎」

北緯37度44分6.3秒・東経137度32分6.5秒 海拔 平均5m

金沢の中心地・JR金沢駅からのと里山海道・珠洲道路を經由して、車で約2時間半。のと里山空港から珠洲道路を經由して、車で約50分。小松空港から北陸自動車道・のと里山海道・珠洲道路を經由して、車で約2時間50分。富山きときと空港から北陸自動車道・能越自動車道・のと里山海道を經由して、車で約3時間。

## 2. 地勢・面積

日本海を臨む能登半島の最先端に位置する珠洲市の中心地より東へ約5 kmに位置し、大自然に囲まれ、オートキャンプ場、ホテル等を備えたリゾート地「りふれっしゅ村 鉢ヶ崎」とその周辺を会場とする。

## 3. 気 候

過去5年間の8月の気候は、平均気温25.7度（最低18.1度、最高35.9度）、また平均降雨量は163.1mmであり、沿岸地特有の気候である。

〈参考：過去の大会の気候〉

回数	開催年	会場	海拔	平均気温	最低気温	最高気温	平均降水量
14	平成18年(2006年)	石川県 珠洲	5m	25.6℃	21.5℃	30.3℃	2.8mm
15	平成22年(2010年)	静岡県 朝霧高原	800m	22.7℃	19.7℃	28.3℃	9.1mm
16	平成25年(2013年)	山口県 きらら浜	2.7m	32.2℃	27.2℃	40.0℃	0.9mm

# 第6章 参 加 者

## 1. 参加者

本大会は、加盟員のボーイスカウトおよびベンチャースカウトを参加の主体とし、参加にあたっては、活動を支援する成人指導者とともに加盟登録の団・隊により参加隊・班を編成する。人数の少ない団・隊においては、近隣の団・隊と混成の参加隊を編成することができるが、参加隊の運営は、加盟登録の団・隊を尊重する。

参加隊には、外国連盟、ガールスカウトをはじめとする関係諸団体ならびに一般からの青少年の参加を歓迎するとともに、心身や発達に障がいのある青少年の参加を奨励する。

本大会は、青年・成人の大会運営スタッフにより運営される。大会運営スタッフには、加盟員はもとより外国連盟、ガールスカウト、関係諸団体、一般成人等からの奉仕を歓迎する。

## 2. 派遣団の編成

大会の参加にあたっては、ボーイスカウトの都道府県連盟(以下、県連盟と略す)、各国連盟、関係諸団体単位で派遣団を編成する。海外からのスカウト関係者の参加は、当該国連盟が承認した派遣団とする。

派遣団は、参加隊および大会運営スタッフで編成し、諸調整を行う派遣団本部スタッフを置く。

## 3. 参加人員

国内スカウト運動最大の国際キャンプ大会として、次の参加者をもって1万3千人規模で開催する。

参加の区分	内訳	人数
参加隊	(1) ボーイスカウトおよびベンチャースカウト	8,800人
	(2) 上記の引率指導者	2,200人
	(3) 外国連盟、ガールスカウト、関係諸団体等	
大会運営スタッフ		2,000人
派遣団本部スタッフ		250人
	合計	13,250人

## 4. 加盟員以外の参加

ボーイスカウト加盟員以外の関係諸団体および一般からの青少年の参加は、参加者の所属する当該組織と協議のうえ、次章以降の加盟員の参加資格等に準拠して別に定める。

## 5. 来訪者・来賓

参加者以外に会場に訪れる見学者等の来訪者、および日本連盟が招待する来賓等については、別に定める。

## 第7章 加盟員の参加

### 1. 参加人員の割当

参加人員の割当は次のとおりとし、県連盟は割り当てられた人数を責任を持って確保する。

#### (1) 参加隊

参加隊は、平成27年度加盟登録（平成28年3月31日時点）のボーイスカウト部門およびベンチャースカウト部門のスカウト登録人数に基づく希望調査を行い、参加人数をもって県連盟に配分する。

#### (2) 大会運営スタッフ

大会運営スタッフの人数は、参加隊の区画数に応じて県連盟に割り当てる。

#### (3) 県連盟派遣団本部スタッフ

県連盟の派遣団本部スタッフについては、別に定める。

### 2. 参加資格

参加するスカウトおよび指導者は、平成30年度の加盟登録を有し、2頁の日程表に示す8月4日から8月10日までの6泊7日間のキャンプ生活に十分に耐えうる健康とキャンプ技能を有するよう各団が責任を持って訓練する。

また、スカウトおよび未成年の指導者の参加にあたっては、保護者の参加の同意を得ること。

#### (1) ボーイスカウト（BS）

ボーイスカウトで、上記の参加資格を有すると隊長が認めた者。

#### (2) ベンチャースカウト（VS）

① ベンチャースカウトで、上記の参加資格を有すると隊長が認めた者。

② 参加隊指導者の指導のもと、隊の運営に協力し、ボーイスカウトのプログラム参加および生活面での支援を行うことができること。特に上級班長については、ベンチャースカウトの中から、指導力を有する1級スカウト章以上の技能のある者であり、班長・次長として6か月以上の経験を有することが望ましい。

#### (3) 参加隊の指導者

隊指導者として、教育規程に定められた役務に応じて必要な資格を有するか、県連盟がこれと同等の資質と経験を有すると認めた者。参加スカウトに女子が含まれる場合は、指導者のうち、少なくとも1人は女性とする。

① 隊長 20歳以上で、隊指導者基礎訓練課程のボーイスカウトまたはベンチャースカウト課程を履修した者。ただし、25歳以上が望ましい。

② 副長 20歳以上で、導入訓練課程の訓練を修了した者。ただし、隊指導者基礎訓練課程の修了者が望ましい。

③ 副長補 18歳以上で、導入訓練課程の訓練を修了した者が望ましい。

#### (4) 県連盟派遣団本部スタッフ

県連盟の役員および事務局職員等。

#### (5) 大会運営スタッフ

① ローバースカウト、指導者、県連盟・日本連盟の役員および事務局職員、スカウトクラブ会員等。

② 日本連盟が要請する各分野における専門家（外部インストラクター・協力者等）。

#### (6) 演技グループ

ボーイスカウトの音楽隊や鼓隊等、全体行事の演技者として参加する隊の指導者・スカウトの参加資格は、当該県連盟と協議のうえ別に定める。

### 3. 隊・班の編成

17NSJでは、自団の隊のままで参加できる方式を採用する。

従前の派遣隊参加方式の場合には、引率する指導者が限られ、各隊では別に隊キャンプを計画するために指導者の関心が薄らぎ、隊や団でジャンボリーが話題とならない現状があり、また、加盟登録人数の減少により代表スカウトの選抜も形骸化している。17NSJ以降、自団の隊のままで参加できる方式を取り入れることで、希望するすべてのスカウトが自団の指導者と一緒に参加できるようになり、ジャンボリー参加に向けて団や隊が盛り上がり、中途退団者の抑止やカブスカウトの上進率向上に期待している。また、小規模人数の団においては、近隣の団と混成の隊を編成し、複数班での活動を体験できる機会とする。

#### (1) 参加隊の編成

各団では教育規程に基づく隊編成により、ボーイ隊とベンチャー隊の合同で参加隊を編成する。隊指導者は、隊長と副長の2人を最低人数として、必要に応じて副長・副長補を任命する。場外プログラムへの参加を考慮して、各班に引率できる隊指導者人数を確保する。

#### (2) 班の編成

班の編成は、各ボーイ隊での普段の班編成を尊重する。

#### (3) ベンチャースカウトの参加

ベンチャースカウトは、隊指導者の指導のもと、参加隊の運営に協力し、ボーイスカウトのプログラム活動やキャンプ生活を支援することで、自ら隊活動の楽しさを体感しながら後輩のボーイスカウトに範を示し、彼らの上進意欲に繋げる。

また、ベンチャースカウトは、ボーイスカウトと同様にジャンボリーのプログラム活動に参加するとともに、大会運営のための奉仕活動にも取り組みながら、国内外の多くのスカウト仲間と出会い、隊活動の楽しさやスカウト運動の広がりを感じさせる。

#### (4) 隊サイトの割当て

参加隊のキャンプ地は40人に対して約750㎡(約225坪)を基準として割当てる。参加者の少ない隊は、複数の隊で1つのキャンプサイトを利用する。また、配給についても隊サイトを単位に行う。

#### (5) 混成隊の編成

参加者の少ない隊は、近隣同士の団・隊で協議のうえ、混成隊を編成することができる。混成隊を編成する場合も、各団・隊から指導者が引率し、普段の班編成を尊重する。また、40人を超えて隊を編成することはできない。

近隣同士で協議できない場合には、県連盟内または県連盟同士の調整により、少人数隊を同じ隊サイトに割当てることがある。

#### (6) 派遣隊の編成

特段の事情により、自団の隊のままで参加できない場合には、県連盟を通じて日本連盟と事前協議を行い、従前の派遣隊を編成して参加することができる。派遣隊は、次の基準により編成する。

隊指導者は、隊長と副長の2人を最低人数として、必要に応じて副長・副長補を任命して最大8人程度まで編成する。場外プログラムへの参加を考慮して、各班に引率できる隊指導者人数を確保する。ただし、隊指導者の人数がスカウトの人数(ボーイスカウトおよびベンチャースカウト)を上回ることはできない。

40人に満たない編成の場合には、県連盟内または県連盟同士の調整により、少人数隊を同じ隊サイトに割当てることがある。

〈派遣隊の編成例〉

隊長	1人
副長および副長補	1～7人程度(ただし少なくとも1人は副長とする)
上級班長(ベンチャースカウト)	(1人) 上級班長の人数はVS班に含める
ベンチャースカウト班	1～20人(1～2こ班)
ボーイスカウト班	28～32人(1～4こ班)
<hr/>	
計40人以内	

#### 4. 参加日程

参加者は、2頁の日程表に示す入場日から退場日までの全日程に参加することを原則とする。

## 第8章 参加に要する経費

### 1. 大会参加費

参加者1人あたりの負担金は40,000円とし、日本連盟加盟員は予納金と残額を分割して納入する。

#### (1) 参加費の予納金 (平成29年11月末日までに日本連盟に納入する)

参加者は1人あたり10,000円を予納金として、参加予定申し込みと同時に所属県連盟をとおして日本連盟に納入する。

予納金は、他の参加者の予納金として振り替えることはできるが、払い戻しはしない。また、予納金は参加確定申し込みの際に納入する他の参加者の参加費の一部として振り替えることもできない。

#### (2) 参加費の残額 (平成30年4月20日までに日本連盟に納入する)

参加者は参加費の残額1人あたり30,000円を、参加確定申し込みと同時に所属県連盟をとおして日本連盟に納入する。

参加確定申し込み時に納入する参加費は、他の参加者の参加費に振り替えることはできるが、日本連盟に納入した参加費の払い戻しはしない。

### 2. 大会参加費の一括納入

外国派遣団、ガールスカウト、関係諸団体ならびに一般青少年等の加盟員以外からの参加者は、申込期日・申し込み手続きの関係から、大会参加費(予納金および残金)を一括して、参加申し込み時に納入することができる。

### 3. 経費の内訳

参加者負担金は、大会の準備および開催に要する経費に充てる。

#### (1) 諸準備から報告書作成までの経費

#### (2) 8月4日(土)夕食から8月10日(金)朝食分までの17食分の食料費 (ただし、米は含まない)

※大会運営スタッフと派遣団本部スタッフは、8月2日(木)夕食から8月11日(土)朝食までの26食分

#### (3) 炊事用等の燃料費

#### (4) 配付資料、参加章等の費用

#### (5) 会場の設備費および運営費

#### (6) 会期中の救護衛生費

#### (7) 賠償責任保険の保険料

#### (8) その他

※ 場外プログラムの費用は含まない。

## 第9章 参加の申し込み

### 1. 参加予定申し込み

#### (1) 各団の手続き

各団は、参加隊と大会運営スタッフの参加希望者をとりまとめ、予納金(1人あたり10,000円)を添えて、平成29年10月末日までに所属県連盟に提出する。

#### (2) 都道府県連盟の手続き

各県連盟は、県連盟内の参加予定人員その他について次の項目別に整理し、平成29年11月末日までに参加予定申込書と予納金を日本連盟事務局に提出する。

- ① 参加隊のスカウトおよび指導者の参加予定人数
- ② 県連盟派遣団本部スタッフの人数と名簿
- ③ 大会運営スタッフの人数と名簿
- ④ 人員および荷物の輸送計画

## 2. 参加確定申し込み

### (1) 参加者の手続き

参加者は、参加確定申込書に必要事項を記入し、参加費の残額(1人あたり 30,000 円)を添えて、平成30年4月10日までに所属県連盟に提出する。

### (2) 都道府県連盟の手続き

各県連盟は、参加確定申込書および参加費をとりまとめ、平成30年4月20日までに日本連盟事務局に提出する。

### (3) 事前送付

日本連盟事務局は、確定申込書を受領後、参加章等その他必要な物品、書類を、県連盟を通じて送付する。

### (4) 参加者の超過

参加確定申し込みを越える追加参加は認めない。

#### 〈準備日程〉

時期	日本連盟の準備・連絡	県連盟・地区・団の準備	
平成29年 (2017年)	6月	基本実施要領の公開・参加者割当を通知	県連盟内・地区内の割当を調整
			団内・保護者等に案内 団内で指導者とスカウトの参加希望を調整 近隣の団との混成を調整
	9月	参加予定申し込み・第1次輸送調査を実施	
		県連盟締め切り(10月末日)	派遣団の輸送計画を検討・調整
		日本連盟締め切り(11月末日)	
平成30年 (2018年)	1月	参加確定申し込み・第2次輸送調査を実施	大会参加に向けた隊訓練
		県連盟締め切り(4月10日)	
	4月	日本連盟締め切り(4月20日)	
	7月	資料等の事前送付	
	8月	大会開催	大会参加

## 第10章 ジャンボリー活動と日程

### 1. ジャンボリー活動

ジャンボリー活動は、大会期間を中心にその前後のすべての活動を含む、一連のまとまりのあるプログラムである。それには、参加の動機付、準備訓練、大会期間中のキャンプ生活、大会プログラムへの参加、参加者同士の交流、帰宅後の評価と報告までのすべてが含まれている。

大会のプログラムは、17NSJ以降の日本スカウトジャンボリーにも継承される内容となるよう次の点に留意しながら企画し、すべての参加者の成長を助けるよう身体的、精神的、知的、情緒的な発達と社会性を育むことを目標に、それぞれをバランス良く配分して提供する。

- 進級課目と関連させて、進級の目標が持てるプログラム
- ボーイスカウトおよびベンチャースカウト部門の活動の特色を発揮できるプログラム
- ジャンボリーに向けて準備を進めることで、隊活動が活性化されるプログラム
- 野外活動を基本に、体験活動や体力を使うダイナミックなプログラム
- 班(小グループ)活動を活用して展開できるプログラム

- 開催地の特色や周囲の環境を活かした、魅力あるプログラム。
  - 関係組織や諸団体の協力を得て、多様で専門性のあるプログラム
- また、大会プログラムの運営と実施については、次の点に留意して構築する。
- 魅力的な活動を安全な環境のもとで実施する。
  - 開催地の自然環境を活かしながら、大会による影響を最小限に止めた設備とする。
  - 廃棄物の発生を最小限にするとともに、資源やエネルギーの節約、再使用、再生利用等に配慮する。

## 2. プログラムの区分

### (1) プログラム

隊サイトでの野営生活の実践や、サブキャンプでの展開、場内外で行われる各種プログラムに参加することにより、すべての参加者が体験する。プログラムの詳細、区分等は別に定めるが、次のものを予定している。

#### ① 競技的プログラム

進級課目と関連させた班や個人の対抗競技により、一つ上の進級を目指すとともに、班のチームワークを高める。

#### ② チャレンジプログラム

会場の広さや参加人数を体験できる大会の規模を活用したプログラムで、スカウトのチャレンジ精神を高揚させる。

#### ③ 知的・体験プログラム

場内外で陸・海・空の自然、科学、伝統・文化を基本としたテーマで、体験活動を取り入れたプログラムを展開し、スカウト活動の魅力を感じたり、将来の進路選択に向けたキャリア形成を促したりする。

#### ⑤ 信仰・奉仕活動

宗教行事への参加や、隊や班におけるスカウトズOWN・サービスを通じて、「ちかい」と「おきて」の実践や、平和や恵みについて考え、スカウトとして行動を起こす。

#### ⑥ 野営生活

隊や班サイトの設営・撤営、日々の野外炊事等を行うことにより、野営生活に必要な「衣食住」の技術を定着させ、リーダーシップ、チームワーク、フォロワーシップを育成する。

#### ⑦ 交流プログラム

隊や住んでいる地域の紹介をPDCAサイクルにより実践し、隊や班同士の交流を促す。

### (2) スカウトセンター

スカウトセンターでは、外国派遣団、日本各地（県連盟またはブロック）のスカウト活動の紹介や、団体・企業等の活動を紹介する。スカウトセンターは、参加者が余暇の時間を利用して自由に訪れることができ、見学者にも開放する。

### (3) 全体行事

#### ① 開会式

参加者が大会の開会を祝い、本大会の趣旨を確認する。

#### ② ジャンボリー大集会

異なる文化・信条を持つ参加者同士が、参加する国や地域などによる特色ある演技等の鑑賞をとおして、世界に広がるスカウト運動を体感し、団結する。

#### ③ 閉会式

ジャンボリー会場で過ごした時間を振り返り、大会に関わる人・物・環境について感謝の心を持つ。そして、大会で出会った仲間との再会を約束するなど、ジャンボリーで学んだことへの実践を誓う。

### (4) ジャンボリーアワード

参加スカウトがキャンプ生活を含む期間中の諸活動に積極的に取り組めるよう、参加スカウトを対象としたアワードを設ける。このアワードは大会プログラムの完修章ではなく、指導者がスカウトの個人的進歩を評価する方法であり、期間中の活動を記録しながら振り返り、大会後の目標設定に役立ててもらおう。

### (5) スカウト通信員

スカウト通信員は県連盟または各参加隊から選ばれ、大会を通じて得た体験や経験をスカウト自身のメッセージとして社会に伝えるために、各種メディア等の制作に参画する機会を提供する。

## 3. 日程

プログラム実施日については、2頁の日程表のとおりとし、実施時間については、次の基本日課の午前・午後・夜間の活動時間内とする。

### 〈基本日課〉

起床	6:00	夕食	18:00
朝食	7:00	国旗降納	18:30
国旗掲揚	8:30	夜間の活動	19:30～21:00
午前の活動	9:00～12:00	就寝	21:00
昼食・休憩	12:00～13:30	消灯	22:00
午後の活動	13:30～16:30		

## 第11章 会場利用計画と参加者の生活

### 1. 会場利用計画の区分

#### (1) 生活地域（サブキャンプ）

参加隊の生活地域として6か所のサブキャンプを設置する。各サブキャンプは、ブロックの参加人数に応じた区画数に区分し、面積と担当するブロックは、予定申し込み、確定申し込みの人数により調整する。

また、大会運営スタッフ等の成人のためのサブキャンプを1か所に区分して利用する。派遣団本部スタッフとサブキャンプ本部のスタッフは、当該県連盟の参加隊が所属するサブキャンプで生活する。

参加隊のサブキャンプへの配置は、サブキャンプを担当する県連盟・ブロックへの配置を原則とし、人数の多い県連盟の参加隊を分散して配置される場合があるが、その割合は各県連盟とブロックの実情と要望を考慮して弾力的に定める。外国派遣団のスカウトは、加盟員の参加隊に配属される。

##### ① 参加隊のキャンプ地

参加隊のキャンプ地は、40人に対して1区画750㎡を基本に計画し、少人数の参加隊については、複数の隊で1つの隊サイトを利用する。複数隊での隊サイトの利用に際しては、県連盟派遣団本部またはサブキャンプ本部により隊の組み合わせを調整する。

この他、外国派遣団、ガールスカウト、関係諸団体、一般参加者、協力者等の生活サイトについては別に定める。

##### ② 生活設備

サブキャンプエリアには、参加者の生活に必要な給水所、汚水枿、トイレ、シャワーを設置する。

##### ③ 広場・営火場

各サブキャンプには、参加隊が共有して利用するサブキャンプ広場と営火場を設置する。

#### (2) アリーナ地域

開会式・閉会式等の全体行事を実施するアリーナ地域を設ける。

#### (3) プログラム地域とスカウトセンター

プログラムのテーマや区分に応じて、プログラムエリアを設ける。各テーマや区分に応じて、事務所と倉庫として利用するテントを設置する。

外国派遣団、日本各地（県連盟またはブロック）のスカウト活動の紹介や、団体・企業等の活動を紹介する展示エリアとしてスカウトセンターを設ける。

#### (4) 売店地域

会場内に次の売店と食堂を設ける。

- 大会記念品等を扱うスカウト用品売店
- 参加者の生活に必要な生活雑貨や飲料等の日用品、郵便や宅配等のサービス、地元物産品等を扱う一般

売店

- 見学者に向けた軽食や弁当等を扱う一般食堂

## (5) 大会本部地域

大会本部の業務・運営に必要な事務所機能、会議所、倉庫を備えた大会本部地域を設ける。大会本部の事務所機能や会議所は、各派遣団も利用できる。

## (6) 駐車場地域

### ① 場内駐車場

業務用車両、来賓のための駐車場を場内に設ける。

### ② 場外駐車場

参加者、来訪者の留置き車両のための駐車場を場外に設け、会場までのシャトルバスを運行する。

## 2. 食事（配給）

### (1) 食料の配給

参加隊の食事は野外炊事とし、大会本部からサブキャンプ本部を通じて食料の配給を受ける（ただし、米は含まない）。

食料の配給は、8月4日（土）夕食分から8月10日（金）朝食分までの17食分を配給する。

### (2) 炊事用燃料の配給

炊事用の主たる燃料は薪とし、食料の配給に準じて次のとおり配給する。

#### ① 材質・仕様

間伐材、除伐材を使用したコナラ（広葉樹）50%と杉（針葉樹）50%の混合。

長さ約30cm、太さ一辺約6cm。

#### ② 配給数量

40人あたり20束相当（1束あたり約7kg）を基本として、サブキャンプにて各参加隊の人数に応じた相当数量を配給する。

### (3) スタッフの食事

派遣団本部スタッフとサブキャンプスタッフは、当該サブキャンプで給食を受ける。それ以外の大会運営スタッフは、本部食堂での給食を受ける。

給食および昼食の配給は、8月2日（木）夕食分から8月11日（土）朝食分までの26食分とする。

先発・後発のスタッフの食事については、別に定める。

### (4) 標準献立

標準献立表は、別に示す。

## 3. 服装および携行品

### (1) 服装

加盟員が、全体行事（開会式、ジャンボリー大集会、閉会式）に参加する際は、制服を着用する。制服には参加章、記章、標章を正しく着用する。旧制服を着用する場合は国旗標章（日の丸）を右胸世界スカウト記章の上に着用する。

生活や作業の際には、それに適した服装とし、プログラム参加時の服装・携行品については、別に示す。

### (2) 携行品

#### ① 参加隊の携行品

17NSJの携行品およびキャンプ用装備は、快適なキャンプ生活を維持し、かつ楽しいジャンボリー活動が展開できるよう、簡素で、しかも精選されたものを準備する。これらの装備品等は準備訓練で十分使い慣れておくこと。生活地域（サブキャンプ）は日陰が少ないので、フライシート等の日除けが必要である。

- ② 大会運営スタッフ・派遣団本部スタッフの携行品  
大会運営スタッフおよび派遣団本部スタッフは、生活に必要な個人装備品と宿泊用のテント等を持参する。
- ③ 外国派遣団  
外国派遣団は、生活に必要な個人装備品を持参する。テント等の隊装備品は、別に定める。

## 第 12 章 輸 送

### 1. 輸送計画

各派遣団は、当該参加隊と大会運営スタッフの輸送計画を立案し、調整を行う。

大会本部は、会場内で一度に停車・乗降できるバスの台数に限りがあるため、到着・出発の時間帯を定め、各派遣団の輸送調査を踏まえ、各派遣団の到着・出発時刻を全国的に調整する。

### 2. 集散移動に要する経費

参加者の居住地から会場までの集散移動に要する経費は、すべて参加者の負担とする。

### 3. キャンプ装備・備品等の輸送

- (1) 個人の携行品は、参加者が各自で携行することを原則とする。
- (2) 参加隊、派遣団本部、大会運営スタッフの装備・備品等の荷造発送方法は、別に示す。
- (3) 輸送に関する細部は、別に定める。

### 4. 個人の車両

会期中、会場内における個人の車両の使用は認めない。

### 5. 会場内の交通制限

会期中、会場内を通行できる車両は、大会本部、警察、消防、報道、郵便、関係業者等の大会業務に必要な車両に限定し、その基準は別に定める。

## 第 13 章 入 場 ・ 退 場

### 1. 参加隊の集散

全国の参加隊の集散の所要日数を同じにするため、集合時には会場に近い派遣団から入場し、解散時には遠い派遣団から退出することを基準とする。

会場近隣への影響と安全な誘導を考慮して、深夜・早朝の入退場は行わない。

#### (1) 入 場

参加隊は、8月4日(土)の朝から夕刻までに会場に到着し、5日(日)の夕刻に開始する開会式までに設営を完了する。

#### (2) 退 場

参加隊は、8月10日(金)の朝から夕刻までに会場を出発する。午前中の出発は、遠方の派遣団を優先する。

#### (3) 手続き

入場・退場に関する手続きは、別に示す。

### 2. 大会運営スタッフの集散

#### (1) 入場・退場

大会運営スタッフの入場は、8月2日(木)の正午までに会場に到着し、夕食までに設営を完了する。

大会運営スタッフの退場は、参加隊の退場完了後とし、8月11日(土)の朝から夕刻までを予定する。入場・退場の手続き、最寄り公共交通機関からのシャトルバスの運行、駐車場の利用等は別に示す。

## (2) 先発・後発スタッフ

事前の準備から携わる実行委員会と専門部会の委員、ならびに大会運営スタッフの到着受け入れや退場等に必要なスタッフは、予め実行委員会から入場・退場日時が指示される。先発・後発スタッフの細部については、別に示す。

# 第14章 安全管理と救護衛生

## 1. 安全管理・事故の防止

大会の参加者は、快適なキャンプ生活を過ごすとともに、ジャンボリーを心に残る思い出とするためには、事故発生の防止に努めなければならない。

特に参加隊において指導者は、キャンプ生活・プログラム活動をとおして、安全指導、安全管理について常に万全の配慮をしなければならない。

参加スカウトは、ほんの少しの気のゆるみから大事故につながる恐れがあることを忘れず、安全の三原則を厳守しなければならない。

〈安全の三原則〉

自分の安全は自分で守る

ルールを守る

安全を最優先にする

## 2. セーフ・フロム・ハーム

大会に参加するすべての指導者は、日本連盟のセーフ・フロム・ハームのガイドラインを遵守して、スカウト運動の信頼を強め、自らの身を守り安全で安心できる活動を展開する。

参加者が期間中の悩みなどを相談できる相談窓口や、リラックスできる休憩所を設置する。

## 3. 健康管理・個人衛生

参加者は、各指導者の指導のもとに、健康管理と保健衛生に十分留意する。また、晴れた日中には真夏日になることが予想されるので、熱中症や食中毒予防への備えを十分にすることが必要である。

ここ数回の日本ジャンボリーでは、救護所の受診者数が全参加者の1割を超えたことから、参加者自身による健康管理と指導者による応急手当てへの備えを徹底する。

## 4. 救護所

会場内の参加者の健康管理と傷病に対して万全を期するため、可能な限りの応急処置ができる本部救護所と、各サブキャンプに応急手当ができるファースト・エイド・ステーションを設置する。また、外部の医療機関との連携をはかり、傷病の度合いにより搬送、受診ができるように手配を行う。

# 第15章 大会組織と運営

## 1. 準備・運営の方針

大会の準備・運営にあたっては、本大会の目的が達成できるように次のことに配慮する。

- 大会運営スタッフは、主役はスカウトであることを常に念頭に置き、彼らの成長に寄与できる運営を心がけるとともに参加者に対してサービス精神を持って対応する。
- 運営を円滑に進めるために、部署間で情報の共有化を図り、パートナーシップを強くする。
- 外国参加者への対応については、特定の部署のみで行わず必要な業務に応じて各部署で行う。
- 生活設備等についても参加者へのサービスを考えたものとする。
- 大会運営スタッフの宿泊については本部宿泊地として一か所に定める。
- 「残すものは感謝のみ」というスカウト精神に基づき、環境に配慮した運営を行う。

## 2. 準備・運営の組織

日本連盟は、都道府県連盟および関係諸団体等からの人的支援により、理事会のもとに実行委員会と専門部会を編成し、大会運営に関わる諸準備を推進する。

本大会の運営は、参加者へのサービスの質と組織運営の効率化を高めるため、従来の13部署による業務を基本に、業務内容の統合やサブキャンプとの連携により9つの部署に整理する。大会の運営にあたっては、過去の大会にみられた「手作り」によるコンパクトな大会運営を目指し、大会経費の軽減を図る。

参加者に関わる業務については、大会本部と関係するサブキャンプ本部の各班と連携しながら業務を進める。

### 3. サブキャンプの組織と役割

サブキャンプの運営は、ブロック内の交流が図られ、県連盟の人材育成につながり、日本の風土に合う方式であった「サブキャンプ本部方式」で運営する。

サブキャンプは、単に参加者の生活の場だけではなく、内外の多くのスカウト仲間と出会い、様々な活動や意義深い交流が展開できる場である。各参加者は、サブキャンプの一員として仲間意識を高め、協働しながら食材の配給や清掃作業等の日々の業務を分担する。

サブキャンプ本部は、各参加隊の指導者と定期的に会合を持ち、プログラム参加等の大会情報を提供するとともに、日々の活動について参加隊指導者を支援する。

### 4. 派遣団本部の役割

派遣団本部は、当該派遣団の参加申し込み等の諸手続きや輸送計画を調整するとともに、派遣団の参加者に大会の情報を伝え、参加の準備を支援する。

県連盟派遣団本部は、当該参加隊が所属するサブキャンプに配属され、参加隊の到着・退場手続き、キャンプサイトの割り当て、参加隊の人数に応じた配給作業等について、サブキャンプ本部を支援する。

派遣団本部は、大会期間中の当該派遣団参加者に関する事件・事故等の問題解決について、大会本部を支援するとともに、場内プログラムについて協力する。

### 5. 参加隊指導者の役割

ジャンボリー活動は、参加するスカウトのために構成されており、各参加隊の指導者によりスカウトの学習・体験を支援し、個人の成長・発達を促すことが必要である。

各参加隊の指導者は、所属する派遣団と連携しながら参加者の申し込みや準備訓練、人員や備品等の輸送など参加に関する準備を進め、大会に関する情報を団関係者や、隊内の参加者とその保護者に提供していかねなければならない。

また、期間中は参加隊スカウトの指導・管理と併せて、サブキャンプスタッフの一員として、サブキャンプ本部および他の参加隊指導者と協力して、参加者の健康と安全に十分留意した快適なキャンプ生活と大会プログラムの円滑な実施のため、必要な役割を担う。

## 6. 大会本部各部の所掌業務

No.	部 名	所 掌 業 務
1	総 務 部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大会本部各部との連絡調整に関すること</li> <li>2. 派遣団との連絡調整に関すること</li> <li>3. 大会本部の会議等の運営に関すること</li> <li>4. 参加者の申込・受付に関すること</li> <li>5. 外国派遣団の受入れおよび連絡調整に関すること</li> <li>6. 大会の事務に関すること</li> <li>7. 見学者に関すること</li> <li>8. 来賓・来訪者に関すること</li> <li>9. レセプションに関すること</li> <li>10. その他各部の所掌に属さないこと</li> </ol>
2	広 報 部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大会の情報提供に関すること</li> <li>2. 参加者のコミュニケーションに関すること</li> <li>3. 大会の露出媒体に関すること</li> <li>4. 報道機関に関すること</li> <li>5. 写真や映像等による大会記録に関すること</li> <li>6. スカウト通信員プログラムに関すること</li> </ol>
3	プログラム部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジョイン・イン・ジャンボリーに関すること</li> <li>2. 場内プログラムに関すること</li> <li>3. 場外プログラムに関すること</li> <li>4. ジャンボリーアワードに関すること</li> <li>5. その他大会のプログラム・行事に関すること</li> </ol>
4	全体行事部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体行事の計画と実施に関すること</li> <li>2. 国旗儀礼の実施に関すること</li> <li>3. アリーナの使用統制に関すること</li> <li>4. 信仰奨励に関すること</li> </ol>
5	安全・救護部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参加者の安全管理に関すること</li> <li>2. 会場内の警備に関すること</li> <li>3. 防災に関すること</li> <li>4. 参加者・見学者の救護に関すること</li> <li>5. 参加者のカウンセリングに関すること</li> <li>6. 大会の危機管理に関すること</li> <li>7. 参加者の緊急避難に関すること</li> </ol>
6	輸 送 部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 場内・会場周辺の交通統制に関すること</li> <li>2. 参加者の集散輸送に関すること</li> <li>3. 大会期間中の人員・荷物の輸送に関すること</li> <li>4. 業務用車両と給油に関すること</li> <li>5. 駐車場に関すること</li> </ol>
7	会場運営部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会場の利用に関すること</li> <li>2. 施設・設備の構築と維持管理に関すること</li> <li>3. 資材・器具の調達と配分に関すること</li> <li>4. ごみ処理に関すること</li> <li>5. 尿尿処理に関すること</li> </ol>
8	配給・食堂部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 参加者の食料に関すること</li> <li>2. 本部食堂に関すること</li> <li>3. 非常用食料に関すること</li> <li>4. 炊事用燃料の調達と配分に関すること</li> </ol>
9	売 店 部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 売店地域に関すること</li> <li>2. 出店者との連絡調整に関すること</li> </ol>

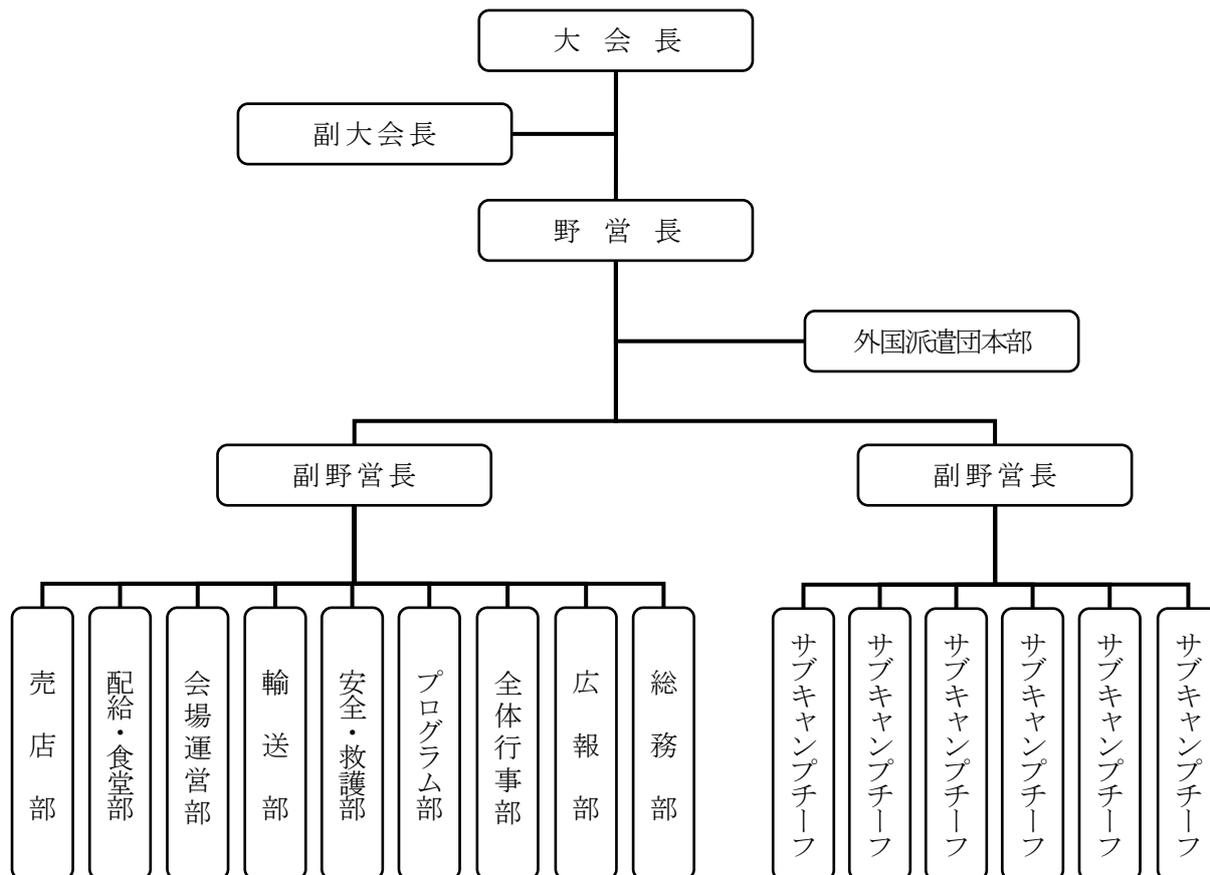
## 7. サブキャンプ内各班の所掌業務

No.	班名	所掌業務	隊指導者の協力の協力
1	庶務班	大会本部総務部および広報部と連携して、次の業務を分掌する。 1. 派遣団本部との連絡調整に関する事 2. 参加者の入場・退場手続きに関する事 3. 参加者への情報提供に関する事 4. 隊指導者との連絡調整に関する事 5. 外国参加者の受入れおよび連絡調整に関する事 6. サブキャンプ内の会議等の運営に関する事 7. サブキャンプスタッフの配属に関する事 8. サブキャンプ内の事務と記録に関する事 9. サブキャンプ内の取材に関する事 10. スカウト通信員プログラムに関する事 11. その他各班の所掌に属さないこと	
2	プログラム班	大会本部のプログラム部および全体行事部と連携して、次の業務を分掌する。 1. 場内外プログラムの参加調整に関する事 2. サブキャンププログラムに関する事 3. ジャンボリーアワードの交付に関する事 4. 全体行事・国旗掲揚等の代表スカウトに関する事 5. 全体行事参加に関する事	
3	安全・救護班	大会本部の安全・救護部と連携して、次の業務を分掌する。 1. 参加者の安全管理に関する事 2. サブキャンプ内の警備に関する事 3. サブキャンプ内の防災と緊急避難に関する事 4. 野営規律の維持と野営生活の指導に関する事 5. サブキャンプ内の遺失物・拾得物に関する事 6. 参加者の応急手当に関する事 7. 参加者のカウンセリングに関する事	
4	施設管理班	大会本部の会場運営部と連携して、次の業務を分掌する。 1. サブキャンプの利用に関する事 2. 参加者のキャンプサイトに関する事 3. 参加者の設営・撤営の指導に関する事 4. サブキャンプ内施設の管理に関する事 5. 借用資器材の配分に関する事 6. ごみ処理に関する事 7. 尿尿処理に関する事	清掃作業 ごみ集積
5	配給・食堂班	大会本部の配給・食堂部と連携して、次の業務を分掌する。 1. 参加者の食料配給に関する事 2. 参加者の炊事用燃料の配分に関する事 3. サブキャンプスタッフおよび県連盟派遣団本部スタッフの給食に関する事	配給作業

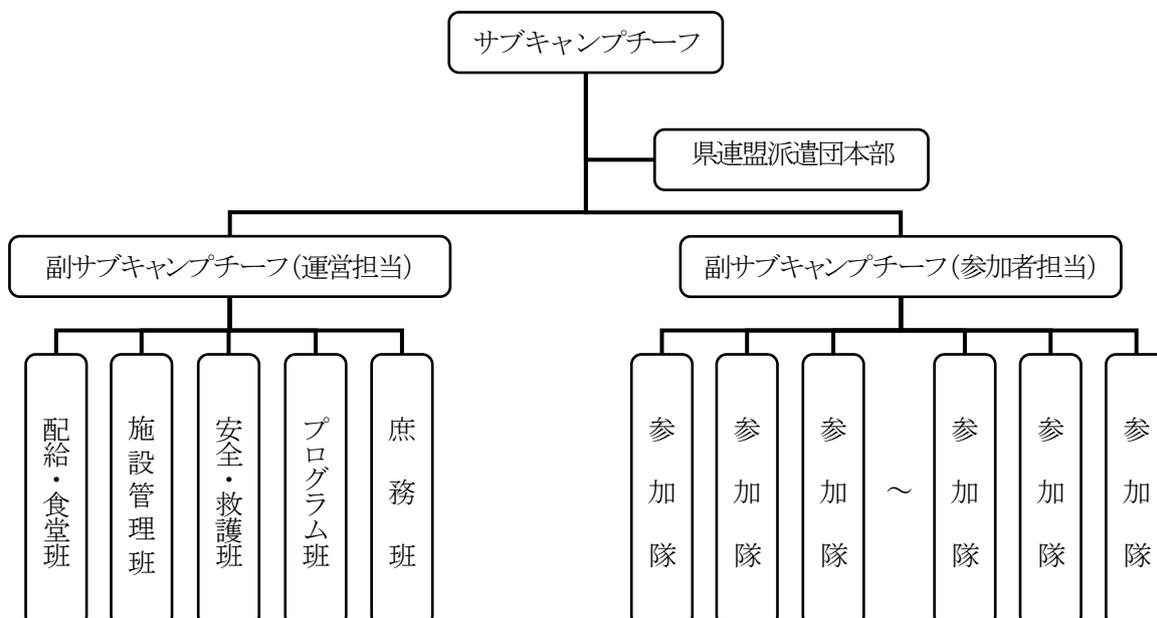
## 8. 派遣団本部の業務内容

1. 参加者の参加準備の支援に関する事 2. 参加者の参加申し込み、入場・退場手続きに関する事 3. 参加者の集散輸送と資器材輸送に関する事 4. 参加隊のサイト割り当てと大会運営スタッフの宿泊に関する事 5. 期間中の各参加隊や大会運営スタッフとの連絡調整に関する事 6. 参加者の事件・事故に関する事 7. 参加者の傷病への看護や急な帰宅等への対応に関する事 8. 場内プログラムへの協力および全体行事への出演に関する事
---

9. 大会本部組織図



10. サブキャンプ組織図



## 第17回日本スカウトジャンボリーに関する留意事項

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟では、本大会の開催に向けて、次の留意事項を大会参加者や関係者へ、広く周知していきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

### 1. 環境に配慮した行動

会場のりふれっしゅ村鉢ヶ崎とその周辺は、能登の豊かな自然に囲まれ、日本の渚百選にも選ばれた鉢ヶ崎海岸に面しています。珠洲の人々が恩恵を受けているこの自然環境へ悪い影響を与えないように、大会運営はもとより、大会参加者についても、環境に配慮した行動を心がけ、環境への負荷を少なくした大会とします。

### 2. 個人情報と写真・映像の取り扱い

大会の参加申し込み等によって得た個人情報および健康状態等は、参加者管理のための参加者名簿・参加者データを作成し、大会運営に使用します。また、参加に関する情報提供および運営業務のために、外部委託先や協力団体等に個人情報を提供する場合には、用途と使用期間を限定します。

個人情報の保全・安全管理については、個人情報の保護に関する法律に基づき適切に取り扱い、大会業務終了後には速やかに廃棄します。

大会の記録用として撮影した画像、映像はすべて公益財団法人ボーイスカウト日本連盟に帰属することになります。参加者の写真や映像は、ジャンボリー新聞、記録映像、ホームページ、報告書等の大会の記録に使用する他、スカウティング誌、各種パンフレット等のボーイスカウト運動普及・振興のために使用する場合があります。使用に際しては、できる限り、個人の特定ができないように配慮します。

参加者の個人情報の収集・利用、写真・映像の使用については、参加申し込みをもって承諾を得たものとし、見学者や協力者等もこれに準拠します。

### 3. 加盟員関係者を含む近隣地域でのキャンプの禁止

加盟員関係者が会場の近隣地域でキャンプを行うことによって、本大会との関連性や混同等のトラブルを避けるため、会期中は、ジャンボリー会場から5km以内の範囲でのキャンプを禁止します。

### 4. 関係者への連絡

開催地の自治体、協力機関および周辺の住民に対して、大会に関する連絡を行う場合は、必ず日本連盟事務局を経由しなければなりません。

### 5. 事前視察

会場予定地は、個人・法人等で所有・管理する私有地・公有地のため、事前の視察で用地に立ち入る場合には、予め土地所有者または管理者へ連絡し承諾を得る必要があります。

視察を行う際には、所属の県連盟を通じて日本連盟事務局へ連絡しなければなりません。

### 6. ジャンボリーシンボルマーク・商標の取り扱い

日本連盟の許可なしに、本大会のシンボルマークや日本連盟の商標を付した製品を製作、販売することはできません。

製品の製作、販売する際には、「スカウト章（世界スカウト章を含む）の取り扱いに関する取り決め」（日本連盟規定集・平成28年版は209頁に記載）に基づき、事前に使用申請が必要となります。

### 7. 商品販売

日本連盟は、商品販売を行う売店地域を会場内に指定し、事前に販売品目および価格の調整を済ませた者だけが販売できることとします。会場では参加者に必要な土産品、日用品、サービスを基準に販売が許可され、危険物や参加者に悪影響を及ぼす恐れのある品物は販売できません。

また、日本連盟は、大会への支援者・協力者を考慮して、一部の販売品目について銘柄等、取扱商品を指定する場合があります。

付表－１ 第17回日本スカウトジャンボリー 標準日程表

時刻	基本日課	第1日	第2日	第3日	第4日	第5日	第6日	第7日	
		8月4日(土)	8月5日(日)	8月6日(月)	8月7日(火)	8月8日(水)	8月9日(木)	8月10日(金)	
06:00	起床	参加者入場 設営	起床・洗面						
07:00	朝食		朝食						
08:00									
08:30	国旗掲揚								
09:00									
10:00	午前の活動		設営	プログラム	信仰奨励 プログラム	プログラム	プログラム	撤営 参加者退場	
11:00									
12:00	昼食・休憩		昼食・休憩						
13:00									
14:00									
15:00	午後の活動		プログラム	プログラム	プログラム	プログラム			
16:00									
17:00		夕食							
18:00	夕食								
18:30	国旗降納								
19:00	夜間の活動		開会式	隊交歓	ジャンボリー 大集会	隊交歓	閉会式		
20:00									
21:00	就寝								
22:00	消灯	消灯							

※ 全体行事の開始時間については変更することがある。

〈基本日課〉

起床	6:00	夕食	18:00
朝食	7:00	国旗降納	18:30
国旗掲揚	8:30	夜間の活動	19:00～21:00
午前の活動	9:00～12:00	就寝	21:00
昼食・休憩	12:00～13:30	消灯	22:00
午後の活動	13:30～16:30		

付表-2 第17回日本スカウトジャンボリー 会場までの交通案内図



●JR利用の場合

- 東京→金沢 約2時間30分 (北陸新幹線利用)
- 大阪→金沢 約2時間30分 (特急利用)
- 名古屋→金沢 約3時間 (特急利用)

●飛行機利用の場合

- 新千歳空港 →小松空港 約1時間30分
- 羽田空港 →小松空港 約1時間
- 成田空港 →小松空港 約1時間15分
- 仙台空港 →小松空港 約1時間
- 福岡空港 →小松空港 約1時間20分
- 那覇空港 →小松空港 約2時間10分
- 小松空港 →金沢駅 約40分 (空港バス利用)
- 羽田空港 →のと里山空港 約1時間
- のと里山空港→珠洲市内 特急バス利用で約50分、ふるさとタクシー利用で約40分

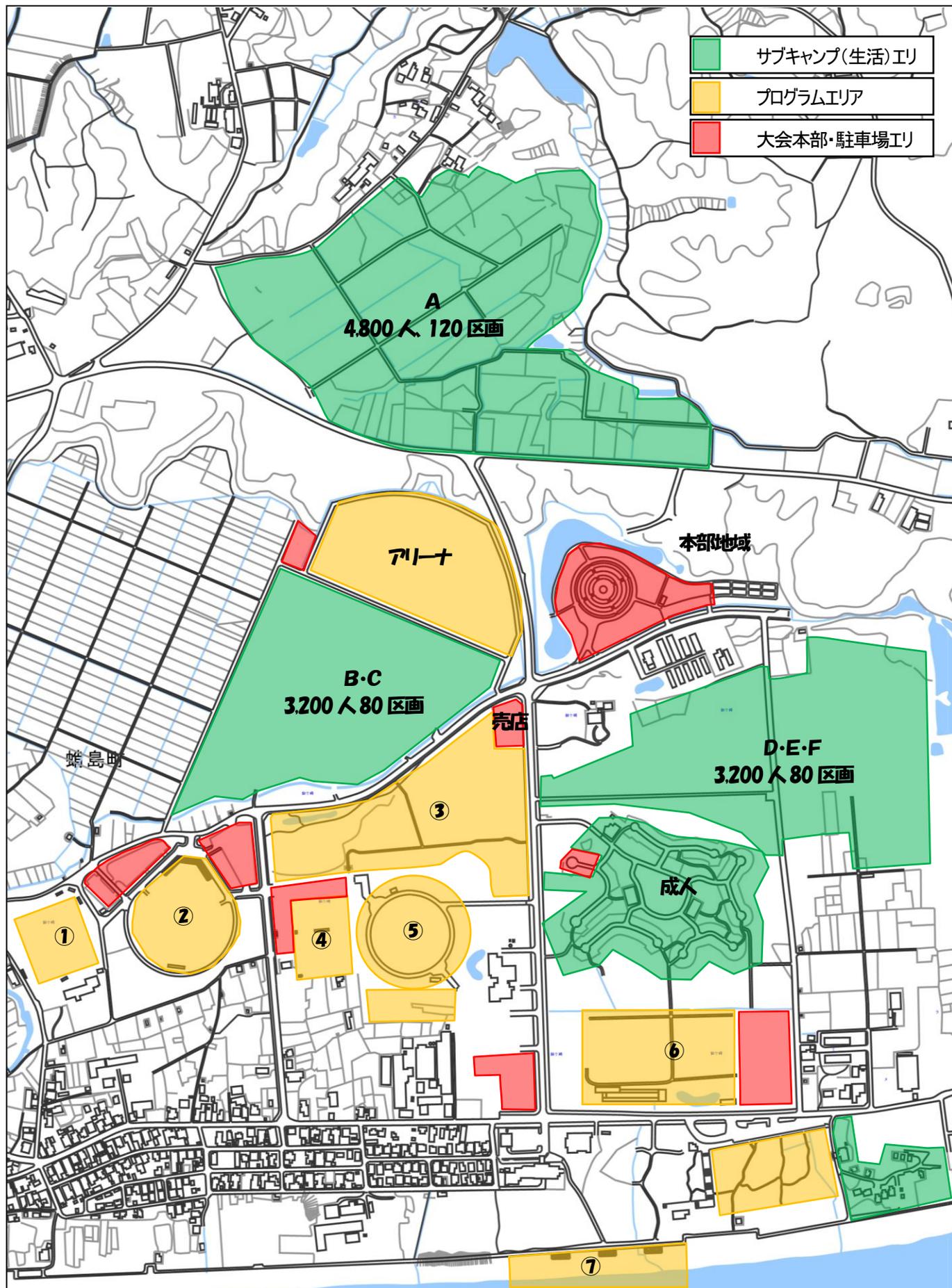
●特急バス利用の場合

- 金沢駅→珠洲市内 約3時間 (1日4便)

●自家用車等利用の場合

- 東京 →金沢 約6時間 (関越・北陸自動車道経由)
- 大阪 →金沢 約3時間30分 (名神・北陸自動車道経由)
- 名古屋 →金沢 約3時間10分 (名神・北陸自動車道経由)
- 金沢 →珠洲市内 約2時間30分 (のと里山海道・珠洲道路経由)
- 小松空港 →珠洲市内 約2時間50分 (北陸自動車道・のと里山海道・珠洲道路経由)
- のと里山空港→珠洲市内 約40分 (珠洲道路経由)

付表-3 第17回日本スカウトジャンボリー会場周辺図



付表-4 大会およびジャンボリー年表

項	回数	開催年月	開催場所	参加人数	参加国数	日本代表
全国大会	1	昭和 24. 9. 24～25	東京 皇居前	4,000	1	—
	2	昭和 25. 8. 18～20	東京 新宿御苑	5,000	1	—
	3	昭和 26. 8. 4～6	山形 蔵王	8,000	1	—
日本 (スカウト) ジャンボリー	1	昭和 31. 8. 2～6	長野 軽井沢	13,000	12	—
	2	昭和 34. 8. 6～10	滋賀 あいばの	17,000	16	—
	3	昭和 37. 8. 3～8	静岡 御殿場	26,000	16	—
	4	昭和 41. 8. 5～9	岡山 日本原	30,000	12	—
	5	昭和 45. 8. 6～10	静岡 朝霧高原	32,600	13	—
	6	昭和 49. 8. 1～6	北海道 千歳原	26,700	12	—
	7	昭和 53. 8. 4～8	静岡 御殿場	26,270	15	—
	8	昭和 57. 8. 2～6	宮城 南蔵王	30,144	17	—
	9	昭和 61. 8. 2～6	宮城 南蔵王	30,173	16	—
	10	平成 2. 8. 3～7	新潟 妙高高原	31,972	32	—
	11	平成 6. 8. 3～7	大分 久住高原	30,914	22	—
	12	平成 10. 8. 3～7	秋田 森吉山麓高原	26,740	34	—
	13	平成 14. 8. 3～7	大阪 舞洲スポーツアイランド	20,588	37	—
	14	平成 18. 8. 3～7	石川 珠洲	20,652	38	—
	15	平成 22. 8. 2～8	静岡 朝霧高原	19,382	42	—
	16	平成 25. 7. 31～8. 8	山口 きらら浜	14,340	54	—
	17	平成 30. 8. 4～10	石川 珠洲	13,000		
	18	平成 34.	(日本連盟創立100周年)			
世界 (スカウト) ジャンボリー	1	1920. 7. 30～8. 8	イギリス ロンドン・オリンピア	8,000	34	3
	2	1924. 8. 10～17	デンマーク エルメルン	5,000	32	32
	3	1929. 7. 31～8. 13	イギリス アローパーク	50,000	69	28
	4	1933. 8. 2～15	ハンガリー ゴドロ	25,792	33	10
	5	1937. 7. 30～8. 14	オランダ フォーゲレンザン	28,750	54	11
	6	1947. 8. 9～16	フランス モアッソン	24,152	71	0
	7	1951. 8. 3～13	オーストリア バトイスル	12,884	61	2
	8	1955. 8. 18～28	カナダ ナイアガラ・オン・ザ・レイク	11,139	71	14
	9	1957. 8. 1～12	イギリス サトンパーク	31,426	82	22
	10	1959. 7. 17～26	フィリピン マッキンリーパーク	12,203	44	520
	11	1963. 8. 1～11	ギリシア マラソン	11,398	89	138
	12	1967. 8. 1～9	アメリカ アイダホ	12,011	105	320
	13	1971. 8. 2～10	日本 静岡県朝霧高原	23,758	87	7,783
	14	1975. 7. 29～8. 7	ノルウェー リリハマー	17,259	91	141
	15	1983. 7. 4～14	カナダ カナナスキス	14,752	106	42
	16	1987. 12. 30～1988. 1. 10	オーストラリア カタラクトスカウトパーク	14,434	84	548
	17	1991. 8. 8～16	大韓民国 雪岳山国立公園	19,083	135	2,675
	18	1995. 8. 1～11	オランダ ドロンテン	28,960	166	1,236
	19	1998. 12. 27～1999. 1. 6	チリ ピカルキン	31,534	157	227
	20	2002. 12. 28～2003. 1. 8	タイ サッタヒップ	24,000	147	1,250
	21	2007. 7. 27～8. 8	イギリス ハイランズパーク	37,868	155	1,510
	22	2011. 7. 27～8. 7	スウェーデン リンカンビィ	40,061	146	966
	23	2015. 7. 28～8. 8	日本 山口県きらら浜	33,628	155	6,651
	24	2019. 7. 22～8. 2	アメリカ サミットベクテルリザーブ	40,000		



平成29年6月23日発行



公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

〒113-8517 東京都文京区本郷1丁目34番3号

電話 (03) 5805-2561 (代表)

ファクシミリ (03) 5805-2901 (代表)

インターネットホームページ

URL : <http://www.scout.or.jp/17nsj/>